

令和2年度の農業を振り返る

園芸

春先の低温により、多くの品目で初期生育の停滞がみられたものの、徐々に回復しました。夏場は天候不順による他県産の出荷量の減少と品質の低下があり、県外市場で品薄状態となったため、様々な野菜が高単価となりました。害虫については、各品目でチョウ目類の被害が例年よりも多く見られました。新型コロナウイルスの影響については、外食に係る業務用の出荷量に若干影響が出たものの、家庭内消費が増えたことで量販店などでの需要に伸びが見えました。

メロン

定植後に低温で推移したため初期生育が遅れたものの、その後の断続的な降雨と気温の上昇により順調に推移しました。早生品種は3L中心の出荷となりましたが、晩生品種は収穫期の降雨によって玉伸びし、大玉での出荷となりました。販売面では、当初は新型コロナウイルスの影響が懸念されたものの、安定した単価での販売となりました。



7月13日(月)「わかみメロン」目揃え会

枝豆

作付面積72.6ha(前年対比99%)、出荷数量136.1トン、販売額9,404万円となりました。栽培面では、極早生から中生品種は播種後の低温や鳥害による被害、中晩生以降の品種については開花期の長雨や日照不足など、枝豆には大変過酷な条件となりました。収量の減少から出荷量も落ちましたが、品質面では鮮度管理を徹底し販売先からの信頼を得ることができました。単価面では、販路を拡大しながら高単価を維持し、県外向けでは128%と前年単価を大きく上回る結果となりました。次年度も高品質による有利販売をしながら、単価の確保や販売額1億円を目標に取り組んでまいります。



7月8日(水) 枝豆圃場巡回(雄和・河辺地区)

梨

4月の降雹や低温、7月に雨天が続いたことにより、摘果や病虫害防除の作業に難儀する年となりました。春先の天候不順によって発芽不良が多く発生して結実不足となり、着果数も少なく、肥大期における日照量と降雨量も少なかったため、やや小玉傾向で推移しました。結果、収量は平年より減少しましたが、販売単価は他産地が品薄状態のため稀に見る高単価となり、品種によっては下落したものの、後半も単価は平年以上となりました。病虫害については、黒星病の発生が例年よりもやや多く、次年度へ向けて防除体系を検討していきます。



8月27日(木) 天王地区「幸水」初選果

ネギ

春先は温度が昨年よりも低く推移したため、苗の障害は多く見られませんでした。しかし、定植後も降雨が続いたことから、べと、黒斑、軟腐病が多発し、土寄せなどの管理ができず、生育不良となる圃場が多く見られました。ハモグリバエやヨトウムシといった害虫も近年多く発生しており、的確な病虫害防除が重要になっています。7月上旬から出荷が開始して8月からは県外への出荷が始まり、稲刈り前後の時期がピークとなりました。相場は、京浜市場の品薄が影響して引き合いが強く、価格の高騰がひと月ほど続きました。その後は出荷量の回復や高値の反動などがありましたが、契約出荷を続けて価格維持に努めました。近年は園芸メガ団地や法人の複合経営、基盤整備によって規模が拡大し、市場や学校給食への安定的な大量供給が可能となり、県外や食育の現場でも多く周知されています。



7月20日(月) 夏ネギ目揃え会